

②A—9 食品・栄養摂取状況に関する研究（第2報）  
中流家庭における食品構成について

甲南女子短大 ○奥田 和子  
藤井 俊子

栄養摂取状況を端的に把握する一つの目安として、摂取食品の数を比較することは従来よりなされてきた。食物摂取の状況は、各地域社会により一定の類型がみられ、それは日常の食習慣によるなかば固定的に選択された食品の品目や数量如何によって大きく左右される点を前回の調査で予知し得た。摂取食品の数量は、各家庭間において差が見られ、また固定化しておりこのことが一定の型を作って地域的な特性をなすものである。

これらのことから、都市と農村の高校生の家庭を対象に、食生活調査を行い摂取食品の頻度やその組合わせ等につき、家族差・地域差にみられる傾向を把握した。さらに、これらの傾向が栄養摂取状況の致命的な背景となっていることより、両者の関連性を見極め改善の方途を究明せんとするものである。